

教育目標

- げんきな子
- よくかんがえる子
- なかよくする子

港区立南山幼稚園

Minato City, Nanzan Kindergarten

2月園だより

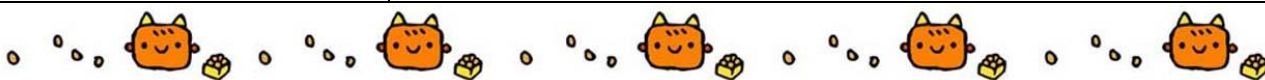
令和4年1月28日

January 28 . 2022

園長 河合 晴美

Principal

Harumi Kawai



体験からその先へ

園長 河合 晴美

先日の正月遊びの会では、御参加いただきましてありがとうございました。保護者の皆さまも竹馬や羽根つきに挑戦していただいたことで、笑顔あふれる楽しいひとときになりました。その後、毎日冬の暖かな日差しの下、子どもたちはつくった凧を持ちだし、凧揚げをする様子が見られます。異年齢の子どもたちが、自分の凧を持って一緒に走ることを楽しむ姿にも笑顔がたくさんあふれています。また、各学年のコマ回しでは、回すことで付けた色の変化を知り、回す場所を定め、回し方をコントロールしながら満足するまで繰り返しています。新しい遊びに取り組み「おもしろい」と感じることで、ひとり一人がさらに力を蓄えていく姿が見られています。

また、オリンピック・パラリンピック教育推進事業として本園が続けている「日本舞踊の会」では、藤間 勘十郎氏をお迎えして演技を見せていただき、六方を教えていただきました。5歳児は、演技で使用されていた三味線や拍子木、鼓といった和楽器に触れ、試す体験もしました。日ごろ幼稚園では経験できない楽器に、緊張しながらも興味・関心をもち、喜んで試す姿がありました。

便利な電子機器に囲まれた社会で過ごす子どもたちにとって、自分自身で体験することがとても大切になっています。子どもたちからは「知っている」という答えが多く聞かれますが、どのように知っているのか、分かるということがどのような状態なのか、見極めて接していく必要があります。幼児は、諸感覚を十分に使い、働かせながら体験をしていきます。そのような中でものごとを捉え、試行錯誤しながら思いを巡らせていきます。このような体験から自身に取り込んでいく過程で、幼児なりの「ものの見方や考え方」がつけられていきます。そして、自分なりに納得しながら「見方・考え方」を深めることが幼児期の生きる力の基礎となる学びとなります。そのため、学びを生かして成長できる環境や働きかけがとても大切であることを心得ながら生活しています。



<日本舞踊の体験> 3歳児



4歳児



5歳児